

株式会社平安製作所 【インジェクターサポート、オイルパンなど】

ガソリン不足の戦時中、木炭ガス発生装置で起業した平安製作所。戦後は、プレス加工に転じてさまざまなものを作ってきた。

「三菱かつらエンジン」が売り出されたときに、エンジンカバーを製造したのが始まりで、現在も三菱車に搭載する板金プレス加工品を多彩に手がけ、「深絞りの平安製作所」という代名詞的な存在になっている。プレスから溶接、電着塗装を一貫して生産しているが常に時代が求めるものに応じ、板鍛造から焼入れまでも視野に入れている。

## 世界に誇る成形技術。

「プレス加工は海外で安くできます。よそではできない特殊な加工、当社にしか作れないものづくりで打って出ないと」と、高橋社長はいう。

「明るく楽しく元気よく」のチャレンジ精神で、

例えば従来はギヤとプレートを別々に作って溶接していたドライブシャブレードを、継ぎ目のない一体形で製造することに成功した。クリーンディーゼルには①オイルパン、②インジェクターサポート、③センシングリング（燃料噴射のタイミングを制御する部品）、各種ブラケット（固定金具）などを納入しているが、燃料噴射装置を保持する役目を果たすインジェクターサポートにおいても工夫がなされている。従来は金属を削って形作るか、金属粉を型にはめて高温で焼き上げている。これをプレス加工で製造できるようにしたこと、約40%のコストダウンを実現した。



株式会社平安製作所  
代表取締役社長 高橋 誠次さん



分厚い金属をプレス加工し、自動塗装の後に焼き入れ。完成品は1枚ずつ検査して万全を期している。

「当社ではいただいた図面通りではなく、何らかの技術を加味してより良く工夫します。こういう提案型の仕事が増えています。今後は軽量化、コストダウンへの取り組みには積極的にチャレンジしていきたい」と、高橋社長。この姿勢と開発力が評価され、各自動車メーカー、海外部品メーカーからも見学が絶えないそうだ。

【株式会社平安製作所】 1939年に木炭ガス発生炉を製造する工場を創設し、翌年に京都市中京区で本社・工場建設。その後、右京区太秦へ移り、プレス加工が中心となる。1962年に滋賀県マキノ町（現・高島市）へ工場を建設し、2003年には本社も集約。エンジン・トランスミッション部品をはじめ板金プレス・溶接・組立・塗装などの加工を一貫して行い、京都オスカー認定を取得している。

インジェクターサポート、オイルパンをはじめ多彩なプレス加工品。従来は削り出しや焼結でしか作れなかった部品をプレス加工で製造し、納期短縮とコストダウンをかなえている。

